

社長メッセージ



大和証券グループは、証券子会社2社の合併により、“新”大和証券を発足し、新たな時代をスタートしました。また、2012年4月からの3年度を対象期間とした中期経営計画～“Passion for the Best” 2014～を策定し、その初年度にあたる当期においては、「再生(Turnaround)」をテーマとし、効率経営の追求による黒字転換に集中的に取り組みました。

事業環境は、長引く景気低迷により2012年6月にTOPIX(東証株価指数)がバブル崩壊後の最安値を更新するなど、特に上期において厳しい状況となりました。その後、11月中旬以降の政権交代に向けた動きのなかで、異常な円高・株安状態が一挙に修正局面へと転換しました。年末にはその流れが一段と加速し、極端に割安に放置されていたわが国株式市場は、外国人投資家の主導によりリーマン・ショック直前の水準をようやく回復しました。東証一部の1日平均売買代金をみても、昨年までは1兆円前後で推移していましたが、年明け以降は3ヵ月連続で2兆円を超える状況となりました。一方、海外市場、とりわけ米国では、雇用改善や住宅市場の底入れに伴う景気回復期待からダウ平均が史上最高値を更新し、ドイツを始めとするその他の主要国も株高基調が継続しました。

こうしたなかで、グループ全体として継続的な固定費削減の取組みや組織運営の効率化を進める一方、独自の証銀連携ビジネスモデルの確立、アセット・マネジメント事業の収益力強化、富裕層向けビジネスの強化、ミドル・マーケットの

カバレッジ強化、ホールセールビジネスの再構築を個別戦略として推進しました。

こうした活動の結果、純営業収益4,173億円、経常利益951億円、当期純利益729億円と、中期経営計画初年度での黒字転換というコミットメントを達成しました。

中期経営計画2年目となる2013年度のテーマは、「成長(Growth)」です。今後個人金融資産のダイナミックな資金シフトが想定されるなか、「貯蓄から投資へ」のシフトを促進し、潤沢なリスクマネーを企業や公共部門に供給することで日本経済の再生・活性化に貢献すべくグループの総力を結集して取り組んでいきます。さらに、革新的な金融商品やサービスの提供を通じて、気候変動や途上国の貧困削減などのグローバルな課題の解決に対しても引き続き取り組んでまいります。

大和証券グループは、企業価値の創造と、持続可能な社会の形成に引き続き貢献すべく、新たな成長ステージを進んでいきます。ステークホルダーの皆様の一層のご支援をよろしくお願いいたします。

株式会社大和証券グループ本社
執行役社長(CEO)

日比野 隆司

会長メッセージ



大和証券グループは「信頼の構築」を企業理念として掲げており、金融・資本市場を通じて社会および経済の発展に貢献することが、自らの社会的使命であり、お客様と社会からの信頼が自らの持続的成長の源泉であると考えています。役職員が、金融・資本市場の担い手としての誇りと誠実さを持って働くことで、それが外部に伝わり、ステークホルダーとの強固で永続的な信頼関係が築かれていきます。

コーポレート・ガバナンスも企業の持続的成長のための仕組みです。当社グループは企業理念を理解した高い倫理観と、プロフェッショナリズムを持つ役職員を基盤としつつ、人権・労働、法令、財務・会計などの分野で経験と実績のある方々を社外取締役を迎えるなど、ガバナンスの強化に取り組んできました。

大和証券グループはこの想いのもとに、役職員が働きがいを感じ、持てる力のすべてを発揮できる職場環境を整備してきました。男女の分け隔てなくキャリア設計ができるよう

な仕組みを実現したことにより、企業グループとしての競争力を大きく高める一方で、高次元のワーク・ライフ・バランスの実現に向けて努力しています。

透明性が高く、信頼感・連帯感を礎とした企業風土の醸成、「貯蓄から投資へ」の流れの創成と加速への努力、投資のリターンを期待しながら社会的リターンも追求する商品を積極的に販売するなど、投資を通じた社会貢献への取組みなどによって、企業価値の向上が図られるものと確信しています。今後とも、大和証券グループの持続的成長に向けた道筋を確かなものにすべく、あらゆる経営努力に傾注したいと考えています。

株式会社大和証券グループ本社
取締役会長

鈴木茂隆